

## 16. 「正しく怖がる」ってなに？

正しくとは、知識を身につけること、怖がるというのはリスクを理解して危険性を減らす、避ける方策を持つことであります。自然現象を抑止したり抑制することはできませんが、自然災害は減らすことができることを改めて知る必要があります。

それでは、何を知識とすべきかという、自然災害の特性と暮らしている地域についてということになります。自然災害は、自然現象と社会状況や社会環境との反応、つまり暮らしがあるために起きるといことが基本です。そのために、何か大きな現象が起きてもその被害は様々なことになり、大きな影響を受けるということは、そこに大きな要因があるということになります。しかし、このことは明確な関係があるとか、数式で表現できるというものではありませんし、社会の変化によって災害の様子も変化します。とはいっても、どこに何が起きやすいのかということは、おおむね想定ができますので、そこをどのように意識して生活の環境を維持するのかということになります。

もちろん、そのような可能性があるところを避けることが最善ではありますが、我が国の国土の性格からもその選択の可能性は極めて小さいと思います。つまり、この列島に暮らすには、自然と共生しながら付き合っていくことが宿命としてあるということになります。

怖がるということは、相手をよく知って付き合うということで、上手にかわすということになります。自然は恵みと恐怖という両面がありますので、無理矢理に対抗するといっても不可能なことです。どのような振る舞いが起きそうなのかということ想定しながら回避するという、いわば相手を見つつ受難に対応することになるような気がしています。

そのためには科学的な知見も大切ですが、これまでの経験知も活かしながら防災・減災をしていく必要があります。この対応には、よく言われるところのハード対策とソフト対策がありますが、特に共助や自助においては、最低限のハード対策と、応用力が求められるソフト対策が大きいと思います。恐れるだけではなく、正しい対応は相手を知ることです。そのために発災時の判断力が必須だし、それを伝えるための仕組みが必要となります。

地域で支援が必要な方には正しい情報を伝えるような支援も必要となります。そのために、情報の峻別が大事になりますので、気象庁などのHPで確認することになります。また、地域に特化した情報を得る場合は、自治体の公式 SNS や防災アプリが便利です。普段からの大事なことは、自然災害は必ず起きるといことで、対岸の火事にも自分事として関心を持ってほしいと思います。